

# 博多老舗ものがたり

「ハダ工芸社」篇（前編） ◎お聞きした方：代表取締役 波田 英次さん

九州中の数々の商業施設や看板・展示会の設計・施工から、「ジャパネットたかた」「NHKのど自慢」の番組セットまで。私たちのさまざまな生活空間の中で実はよく目にしてきているのが、ハダ工芸社の仕事だ。創業から五十九年を迎えるという、福岡を代表するディスプレイの匠・ハダ工芸社の二代目であり現社長の波田英次氏に、創業から今日までを聞いた。

昭和三十一年、現会長であり私の父である波田満が創業しました。戦争から引き揚げてきた父はいくつかの職を経て、看板屋に就職したと聞いています。当時の看板屋というと、全て手描きで書いていた時代。絵を専門にする絵描きと、文字を専門とする文字書きの先生がそれぞれおり、まずはそこに丁稚に入って学ぶというのが一般的でした。しかし父は技術を学ぶ側に進まず、いわゆる営業職を担ったそうです。それ自体看板屋としては珍しいことだったようです。一つひとつ看板を書く仕事よりも、展示会など大きなイベントを狙って一気に受注するというやり方は、戦後復興の時代の波にも乗り、当たったようですね。その会社では若くしてかなりの出世をしたと聞いています。ただそれが悪かった。社長に信頼され、幹部として景況の悪化時に資金繰りの手伝いまでしていた結果、その会社が潰れてしまったんです。父は三十歳になるかならないかという歳で、莫大な借金を抱えてしまいました。今のお金にすると一億円ぐらいの金額だったと聞いています。本来、一社員である父が負う必要はないのかもしれませんが、知り合い等自分の伝手で借りた



ものも大きかったので、父はそれらを全て負いました。後年になって「あの時は死のうかと思った」と話していましたね。母に止められたそうですが。この時、「この歳でこの金額を負ってしまったからには、サラリーマンになっても返せそうもない、じゃあ会社を起業しよう」と思ったというから驚かされます。どれだけ切り替えが早いんだろうって（笑）。

（続く）



■株式会社 ハダ工芸社  
 住 中央区草香江2・2・20  
 ☎ 092・771・1181